

◆ 特別掲載 ◆

社会的リターンは経済的リターンにつながるか？ —因果連関モデルによるESG投資の未来シミュレーション分析—

加藤 康之 CMA
内藤 誠

目 次

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. はじめに | 5. 4コントロール変数同時のシミュレーション結果 |
| 2. 先行研究 | 6. 分岐点における感応度分析 |
| 3. 分析方法 | 7. 終わりに |
| 4. 単一コントロール変数のみのシミュレーション結果 | |

「企業の生み出す社会的リターンは長期的に経済的リターンにつながるのか？」という問いはESG投資における最大の懸案の一つである。本稿では、この問いを検証する試みとして、因果連関モデルを用いた将来シミュレーションを行った。その結果、「温室効果ガス排出量の削減」や「管理職・女性比率の増加」などの単一の取り組みだけでは、経済的リターンを減ずる場合がある。一方で、複数の取り組みにより経済的リターンが大きく向上することが示された。さらに、将来の良好なパスを実現させるには、行政やステークホルダーの適時適切な施策の実行が必要であることも示唆された。なお、本稿は、京都大学が実施した学内助成プログラム「2020年度GAPファンド臨時プログラム」の支援により実施した「ポストコロナ社会における『企業価値』の探索」の成果の一部を取りまとめたものである。



加藤 康之 (かとう やすゆき)

京都大学 経営管理大学院 客員教授、京都先端科学大学 国際学術研究院 教授。東京工業大学修士、京都大学博士。野村総合研究所入社後、1997年野村證券に転籍、金融工学研究センター長などを経て、同社執行役。2011年から京都大学経営管理大学院教授、2021年4月から現職。他に、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）経営委員、証券アナリストジャーナル編集委員、京都大学ESG研究会座長、お金のデザイン研究所長など兼務。



内藤 誠 (ないとう まこと)

レオス・キャピタルワークス(株) 株式戦略部 アナリスト。東北大学大学院理学研究科数学専攻修了後、2017年三井住友信託銀行に入行。2018年三井住友トラスト・アセットマネジメント(株)へ出向。2022年1月より現職。東京都立大学大学院経営学研究科に在籍。